

6月市議会でえんど久子市議意見書を提出

70~74歳の医療費1割負担の継続求める

自民党 公明党などが否決

猿渡（えんど）久子市議は、6月21日の市議会最終日、70歳から74歳の医療費自己負担1割を継続することを求める意見書を提案。

しかし、自民党系会派と公明党の反対で、否決されてしまいました。大変悔しく残念です。賛成は7人（平野・えんど・泉・加藤・森山・三重・森の各議員）でした。

この否決は、自民党・公明党政権の姿勢の表れでしょう。

国民の声で一割負担に

70歳から74歳の自己負担は、後期高齢者医療制度ができた2008年度以降、本来は2割負担となりました。しかし、高齢者の強い反発を受けて凍結され、1割負担を継続してきました。

政府は、自己負担を1割に抑えている特例措置の廃止について、2014年度以降へ先送りする方針を決めた。しかし、一方で、厚生労働省の社会保障審議会医療保険部会では、本来の2割に引き上げるべきだとの意見で一致したと報じられています。



意見書を提案するえんど市議

年金さらに減る中で

年金は減るし、物の値段は上がるし、年金額を今後さらに減らそうとしています。

高齢者の公的医療費を抑えるために、窓口負担をふやし受診を抑制することは、重症化を招き、かえって医療費を押し上げることになります。健診の充実、早期発見・早期治療のために受診アクセスをよくすることが国民の健康を向上させ、医療費を抑制する本筋です。

一割負担にさせないために

自民党・公明党政府は高齢者が安心して医療にかかれるよう、1割負担を続けるべきです。さらに、声を大きく上げましょう。

ご意見・要望などお寄せください。相談事などもお気軽にどうぞ。

日本共産党 別府市議団
げんきニュース

発行責任者 平野文活
別府市石垣西8-2-31
Tel.0977-22-6576

No.562
2013. 7. 3.

猿渡（えんど）久子市議 充実求める

健康づくりのネットワーク

いきいき元気で長生きを

別府市では、健康づくり推進課など各課が連携を図り健康づくりに取り組んでいます。えんど久子市議は、さらに連携をすすめるよう求めました。健康づくり推進課長は、「子どもの頃からの生活

習慣が大事で、各課のネットワークで『健康寿命の延伸』を目標に取り組んでいる。さらに全庁的な取り組みにするための体制整備など充実強化していく予定だ」と答弁しました。



保健センターで毎月開催の「わくわく健康づくり教室」

6月10日は「笑顔に自信が持てるお口のケア～笑顔・口元・息すっきり」をテーマに、口内の細菌の映像を見たあと歯磨きの磨き残しチェック、健口（けんこう）体操などでモチベーションアップ。お口の健康への意識が高まったようです。

日本一元気な商店街などを視察



えんど久子市議は6月27～29日、行財政・議会改革等推進特別委員会視察に参加。佐賀市の議会報告会、武雄市のツタヤが運営する図書館や市内の物産を通信販売するFB良品などを視察。佐世保市の四ヶ町商店

街協同組合は、毎週のように楽しみながらイベントを開催。市民参加のイベントでにぎわい市民が商店街に愛着がわくとのこと。商店街に協同組合が場所を提供しNPOが運営する「親子ひろば」もありました。